

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **66**
July 2006



平成18年度国際医療福祉大学
入学式

小田原保健医療学部開学



2 小田原保健医療学部開学

3 キャンパス紹介／開学を記念して市民公開講座を開催

4 平成18年度入学式
 学長式辞 学長 谷修一

5 平成18年度新入学生概要

6 新規着任教員紹介

8 トピックス
 平成18年度奨学生決定／平成17年度大学決算報告／平成17年度卒業生の進路／平成17年度国家試験合格率——8年連続100%の理学療法士／第11回運動会開催／新入生セミナーを開催(言語聴覚学科)／「国際盲人マラソン大会」で伴走を体験(視機能療学科)／学内での薬学専門実習スタート(薬学部)／医療経営戦略セミナー開かる(医療経営管理学科)／ST棟の起工式を挙(リハビリテーション学部)／新分野を開設(大学院)／認定看護管理者養成コース研修(看護生涯学習センター)／初期研修医グループ合同オリエンテーション

10 私の主張 保健学部長・作業療法学科長 杉原素子

12 私のおすすめ本 医療経営管理学科長 高橋泰

13 大川キャンパスレポート 第5回
 理学療法学科助教授 奈良貴史
 作業療法学科1年 夜久加代子

14 施設インフォメーション
 附属熱海病院(高梨吉則病院長からのメッセージ)／附属三田病院／化学療法研究所附属病院／国際医療福祉病院／山王病院

16 医療福祉チャンネル774／オープンキャンパス開催のお知らせ

お知らせ(学部名称の変更について)
 平成19年4月より、「保健学部」及び「リハビリテーション学部」の学部名称をより的確に表わすために、以下のように変更することとなりましたので、本学関係者の皆様におかれましては、ご承知おきいただきたくお知らせいたします。
 (現行)保健学部→(変更後)保健医療学部
 (現行)リハビリテーション学部→(変更後)福岡リハビリテーション学部

広報誌IUHW66号
 発行：学校法人 国際医療福祉大学
 (大田本校) 広報委員会 栃木県大田原市北金丸2600-1 電話 0287-24-3000
 (小田原キャンパス) 神奈川県小田原市城山1-2-25 電話 0465-21-6500
 (大川キャンパス) 福岡県大川市榎津137-1 電話 0944-89-2000
 (東京事務所) 出版広報室 東京都港区南青山1-24-1 電話 03-5775-2505
 デザイン：IDept. 編集：東京事務所出版広報室

小田原保健医療学部開学

四月八日(土)、小田原保健医療学部では一六三名の学部学生と一五名の大学院生を迎え、新校舎で初めての開学式および入学式を執り行った。



開学・入学にあたり式辞を述べる高木邦格理事長

キャンパス紹介

小田原保健医療学部の新校舎は、都心へ伸びる鉄道五路線のターミナル、小田原駅から徒歩三分という交通の便の良さが最大の特徴。市の中心部に位置する緑あふれる小田原城址公園も近く、校舎からも小田原城を目前に見ることが出来る。屋上に上れば気持ちの良い海風に吹かれる、自然と都市との調和がとれた「都市型キャンパス」である。

古くは東海道の宿場町として栄え、現在では箱根駅伝のタスキの中継地としても知られ、古来より人と物の行き交う町として発達した小田原市。そのような環境の中でスタートした小田原キャンパスを紹介する。校舎の前を新宿へ向かう小田急線、東海道・湘南新宿ラインが走っている。通学時間帯は都心から約五分毎に電車が発着するため、駅前には学生であふれる。学生の約八割が電車通学であるのも納得する程、便が良い。

校舎は地上八階建ての鉄筋コンクリート造り、A・B二棟からなっており、その二棟が中央付近で連結した形の校舎である。

式は新入生の他、多数の保護者や関係者が列席する中、校歌「未来への扉」斉唱で始まった。校歌斉唱に続き高木邦格理事長が式辞で「医療福祉の専門職として国家試験に合格することはもちろん、文化・歴史・ボランティア精神・共に生きる社会を小田原キャンパスで学び、地域において『一味違う』といわれる学生に育ってもらいたい」と新入生を激励した。また谷修一学長は「医療福祉の専門職を目指すことを選択した皆さんに敬意を表すとともに、教職員を代表して皆さんの入学を歓迎します」と式辞を述べた。続いて来賓祝辞で挨拶した小田原市の小澤良明市長は「学生の皆さんが学んだことを地域の市民へ還元していただくことを期待します」と学生への期待を表した。

この校舎内に講義室、各種実習室、図書室、体育館とすべての機能が集約されている。校舎が単一であるため、学科を越えた交流もしやすく、サークル活動等交流が深まっている。校舎の横を新幹線が走るが、完全防音の校舎であるため、音はほとんど気にならない。教室、廊下、体育館ともにエアコンの設備は万全である。

屋上テラスや各階のラウンジは、学生のいこいの場となっており、まだ一年生しかないため、とてもゆったりとした空間となっている。夕方になると混み合っているのが六階の体育館。バレーやバスケット、フットサル等の体育系サークルが動き回り、体育館裏の控室等では音楽系サークルも活動を行っている。とても活気があり、見ているだけでも気持ちがいい。

六階のA棟は理学療法学科の実習室エリア。運動療法室、物理療法実習室等がある。五階は生活技術室、作業技術室等がある作業療法学科エリア。B棟は普通講義室エリアで、ここは三学科の学生が多く集まる場所となっている。四階は看護学科エリア。どの学科の実習室にも最新鋭の機器が備わっている。

二階には図書室があり、広々とした気持ちの良いスペースとなっている。室内にはLL教室もあり、英語、情報処理の授業が行われるだけでなく、学生の研究や自習にも使われている。それぞれの学生が夢へのスタートをきった。充実した四年間を、この小田原の地で過ごしてほしいと願っている。

(学務課 成田光昭)

開学を記念して市民公開講座を開催

小田原保健医療学部は五月二〇日(土)、開学記念市民公開講座を行った。この日は三〇〇人も市民がキャンパスを訪れ、大盛況であった。教職員と第一期生による「手作り」講座で、市民にわかりやすく医療・福祉を体験してもらおうと工夫された全十講座が開かれた。来場者アンケートでは「市民の目線でとても親しみやすく医療福祉を学ぶことができた」「学生の対応がとてもやさしく、説明もわかりやすかった」といった声が多く寄せられた。

小田原市の職員とともに介護保険制度について説明する講座、学生が今学んでいることを紹介する講座、シニア体験セットの負荷を体につけて疑似体験する講座、車いすやポータブルトイレ等「見て・触って・使って」の体験をする講座等が開講された。この講座の準備にあたっては、二週間程前から、各講座担当の先生のもとに学生が集まり、文献を調べ、器具説明のために夜遅くまで先生とともに練習をした。

当日、作業療法学科の掛川茜さんは「自分たちも勉強中でわからないことも多かったが、この展示にむけて調べたことで、自分たちの学科をより知ることができた」と訪れた地元報道関係者に語っていた。

(学務課 成田光昭)



シニア体験セットをつけて歩く



写真右：「誓いのことば」を述べる瀬尾佳織さん
 写真左：祝賀会で挨拶する田中富久子学部長

平成十八年度入学式

大田原本校・四月五日

四月五日（水）、本校において、平成十八年度学部入学式並びに大学院入学式が行われた。当日は悪天候にもかかわらず、新入生の他に多数の来賓や保護者も出席し、広い体育館も二階ギャラリー席まで満席となった。



写真上：式辞を述べる谷修一学長
写真中：コーラス部による校歌「未来への扉」斉唱
写真下：「誓いのことば」を述べる谷口夏季さん

開式の辞に続き、本学コーラス部による校歌「未来への扉」が館内に響き渡った。

谷修一学長、開原成允大学院院長の式辞の後、「ご来賓を代表して、大田原市長・千保一夫様、栃木県知事・福田富一様（栃木県保健福祉部長・田中一成様代読）、栃木県医師会会長・高島三喜様からご祝辞をいただき、また、祝電が披露された。

続いて、学部新入生代表の谷口夏季さん（視機能療法学科）と、大学院新入生代表の麻生翠さん（医療福祉経営専攻修士課程）が「誓いのことば」で、入学の喜びとこれからの抱負を述べた。

最後に谷学長が本学の教育活動の中心となる、副学長、大学院院長、学部長、副学部長、学部長の先生方を一人ひとり紹介し、式は無事終了した。

七日（金）には福岡県大川キャンパスにてリハビリテーション学部の入学式が、続いて八日（土）には神奈川県小田原キャンパスにて小田原保健医療学部の開学式および入学式が行われた。（本校総務課）

学長式辞（要旨）

谷修一学長

▼本日入学した学部学生は二〇七二人、大学院生は二二〇人です。この中には、中国、韓国、モンゴル、カンボジア、ネパール、タイなど、学部、大学院合わせて二〇名の留学生も含まれております。皆様が我が大学を選ばれ、保健医療福祉の専門職を目指すという選択をされたことに対し、教職員を代表して皆様を心から歓迎し、御祝いを申し上げます。

▼大学院生の皆さんには後ほど、開原大学院長が挨拶をされることになっておりますので、私からは特にお話はいたしません。今年から始まった助産師コースの方が含め社会人である皆さんが、仕事と研究の両立を図って、立派な成果を上げられることを期待しております。

▼国際医療福祉大学は、医療や福祉の専門職の地位の向上と高度な教育、そして将来における優れた指導者が必要だとする時代の要請に応えるという大きな夢をもって、十一年前に開学しました。一言で言えば、医療、福祉を専門に学び、研究し、そして教育する大学であります。

教育に関しては、開学以来、病める人も障害を持つ人も健康な人も、お互いに人間としての尊敬を認めあつて生きること。「共に生きる社会を築く」という理念で表わし、これを全学科に共通する教育の理想として掲げてまいりました。

▼さらに本学の教育で重視していることの一つは、臨床教育です。そのために、大学構内及び周辺地区に医療福祉施設を

整備しております。大学のキャンパス内に、障害者のためのリハビリテーションセンターや言語聴覚センター、高齢者のためのグループホームを持ち、また隣の那須塩原市に病院や介護保健施設など、さらに静岡県熱海市に附属熱海病院、東京港区に附属三田病院があります。

▼学生の皆さんにとっては、教育の現場の中に医療や福祉の現場があることによって、障害者や病気のひとと身近に触れ合い、将来の医療福祉職へのより明確な動機付けとなり、「共に生きる社会」を身近なものに実感できます。本学の基礎教育及び臨床教育によって、疾病の治療を目的とする医療施設から生活支援を目的とする福祉施設までの流れ、発達障害、身体障害、老年期障害など子どもから高齢者までの疾病・障害とライフサイクルの変化、医療・福祉サービスを支える多くの専門職種との連携やチーム医療、チームケアなどが理解できます。今年から新たに六年間の教育となる薬学部でも、このような考え方に基づき、医療や福祉を理解した医療人としての薬剤師の養成を進



めてまいります。▼学部に入学された新入生の皆さんはこれからの大学生活で自分が目指す専門学科についての知識や技術を習得することが必須ですが、多くの皆さんは将来、医療や福祉の現場で、人と直に接し、病

気や障害と向きあう訳ですから、病に苦しむ人、障害に悩む人と同じ目線で、生身の人間として接することができるといえるのが大切なことだと私は考えております。豊かな人間性を養うという意味からも、自分の専門以外のことについて幅広い教養を持つことが大切です。常に命の尊さを思い、人に対する思いやりの気持ちと生きる幸せを感じる心を養っていただきたいと願っております。

▼ご臨席のご家族の皆様へ一言ご挨拶を申し上げます。私は、国際医療福祉大学は、学生のためにあつてこそ将来にわたつて発展する

と考えており、私たち教職員一同は、そのため、学生が入学前に期待していたことが満たされ達成できるかどうか、教育の内容やそれを支援する体制が十分かどうかなど、学生が満足するかどうか

が、大変重要なことであると考えております。しかし、これらのことは、決して若者におもねり、迎合することを意味しません。留年する者や、退学者が毎年少なからずいることも事実であり、これは、教育する側にとっては一種の敗北であり、申し訳ないことと思えます。反面、もし他の分野で、情熱と努力をそそげる目標が見出せるなら、ただ漫然と大学生活を送るより新たな道を選ぶことのほうが、むしろ本人のためと思う場合もあり、それはまた、止むを得ないことであることもご理解いただきたいと思えます。

▼皆様のご子弟が本学に在学されていることを誇りに思っていたら、私どもは学生の教育に全力を尽くすつもりであります。皆様におかれましては、大学に対するご意見、ご要望などございましたら、遠慮なくお聞かせください。また、ようお願い申し上げます。ご家族の皆様へのご挨拶とさせていただきます。

▼先程私は、人に対する思いやりの気持ちと生きる幸せを感じる心を養うような幅広い教養と、自分が目指す専門学科についての知識や技術の勉強をやつてほしいということをお述べました。しかし、全ては皆さん自身の意欲次第です。自らを律し、自ら考え、そして自ら学ぶことによつて、大学は楽しく充実して輝きに満ちた場所となります。私は、今ここに並んでいる皆さんが、卒業式でも一人も欠けることのないようにと心から願っております。皆さんのご健闘を期待して、私の歓迎の挨拶とします。

平成18年度新入学生概要

■学部生	1,338名	・理学療法学科	51名	・保健医療学専攻修士課程	8名
[本校]	1,072名	・作業療法学科	51名	・医療福祉経営専攻修士課程	15名
保健学部	607名	[大川キャンパス]	102名	・保健医療学専攻修士課程	1名
・看護学科	125名	リハビリテーション学部	102名	[熱海サテライトキャンパス]	8名
・理学療法学科	101名	・理学療法学科	51名	・保健医療学専攻修士課程	7名
・作業療法学科	102名	・作業療法学科	51名	・保健医療学専攻博士課程	1名
・言語聴覚学科	101名	■大学院生	230名	[福岡サテライトキャンパス]	18名
・視機能療法学科	50名	[本校]	59名	・保健医療学専攻修士課程	11名
・放射線・情報科学科	128名	・保健医療学専攻修士課程	46名	・医療福祉経営専攻修士課程	4名
医療福祉学部	276名	・医療福祉経営専攻修士課程	7名	・保健医療学専攻博士課程	3名
・医療経営管理学科	122名	・保健医療学専攻博士課程	6名	[大川サテライトキャンパス]	8名
・医療福祉学科	154名	[東京サテライトキャンパス]	120名	・保健医療学専攻修士課程	5名
薬学部	189名	・保健医療学専攻修士課程	59名	・医療福祉経営専攻修士課程	1名
・薬学科	189名	・医療福祉経営専攻修士課程	31名	・保健医療学専攻博士課程	2名
[小田原キャンパス]	164名	・保健医療学専攻博士課程	30名	[熊本教室]	3名
小田原保健医療学部	164名	・保健医療学専攻修士課程	14名	・保健医療学専攻修士課程	3名
・看護学科	62名				

千代丸新一 (ちよまる・しんいち)



- ①理学療法学科教授
②1948年7月23日
③市立北九州大学大学院人間文化研究科修士課程修了
④小児理学療法
⑤近畿福祉大学教授
⑥リハビリテーション
⑦概論、理学療法評価学概論、運動療法学
⑧乳児期の移動形態が運動発達に及ぼす影響

リハビリテーション学部

吉川博治 (よしかわ・ひろじ)



- ①薬学科教授
②1947年2月2日
③大阪大学大学院工学研究科醸酵工学専攻修士課程修了
④生物化学工学
⑤三共株式会社製薬技術研究所主幹研究員
⑥生物学・応用分子生物学・化学療法学
⑦生物プロセスを利用した有用物質の生産
⑧工学博士

薬学部

小嶋晃 (おがも・あきら)



- ①薬学科教授
②1939年2月19日
③東北大学大学院薬学研究科衛生化学専攻博士課程修了
④毒性学
⑤北里大学教授
⑥衛生化学
⑦中毒・起因物質の同定

薬学部

上島国利 (かみじま・くにとし)



- ①医療福祉学科教授
②1940年8月31日
③慶應義塾大学医学研究科内科系神経医学専攻修士課程修了
④精神医学
⑤昭和大学医学部精神科主任教授
⑥精神医学
⑦うつ病の総合的研究、向精神薬の効果と副作用の研究、精神科診断学の研究
⑧日本うつ病学会理事、日本診断学会理事、東京都精神医師会理事、日本医師会企画委員

医療福祉学部

竹尾恵子 (たけお・けいこ)



- ①看護学科教授
②1937年10月7日
③東京大学医学部衛生看護学科修了、医学博士
④基礎看護学、看護教育、国際看護
⑤国立看護大学校長
⑥基礎看護学
⑦新人看護職員の能力向上に関わる研究
⑧日本看護研究学会理事

保健学部

佐々木康人 (ささき・やすと)



- ①副学長・大学院教授
②1937年4月2日
③東京大学大学院修了、医学博士
④放射線医学
⑤独立行政法人放射線医学総合研究所理事長
⑥医用画像学
⑦放射線の医学利用と防護・管理
⑧放射線科専門医、核医学専門医、日本内科学会認定内科医、日本医学放射線学会、日本核医学会代議員

国際医療福祉大学

満留昭久 (みつどめ・あきひさ)



- ①理学療法学科教授
②1939年11月19日
③九州大学医学部医学科卒業
④小児神経学、発達小児科学
⑤福岡大学医学部学部長・教授 (小児科)
⑥小児科学
⑦小児神経疾患 (とくにてんかん、頭痛) の臨床・神経生理学的研究・発達障害の包括的支援
⑧日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医、日本てんかん学会認定医

リハビリテーション学部

藤村龍子 (ふじむら・りゅうこ)



- ①看護学科教授
②1940年7月15日
③立教大学大学院文学研究科教育学専攻修士課程修了
④看護診断学、周手術期・クリティカルケア看護学
⑤東海大学健康科学部学部長・教授
⑥成人看護学
⑦看護診断、看護成果、看護介入のリンケージ
⑧日本看護診断学会理事、日本看護歴史学会理事

小田原保健医療学部

千葉百子 (ちば・ももこ)



- ①薬学科教授
②1940年7月21日
③共立薬科大学薬学部薬学科卒業
④環境保健、産業保健、公衆衛生、分析中毒学
⑤順天堂大学医学部衛生学助教授
⑥環境衛生、衛生化学
⑦アラル海の縮小に伴う付近住民の健康被害調査の実施、重金属中毒の継続および希土類元素の生体影響の確立
⑧日本微量元素学会理事、日本産業衛生学会代議員、関東地方会幹事、日本衛生学会幹事、日本公衆衛生学会評議員、内閣府食品安全委員会専門委員、環境省「小児等の環境保健に関する調査検討委員会」委員、東京都公害審査委員会、東京都環境影響評価審議会委員

薬学部

有澤宗久 (ありざわ・むねひさ)



- ①薬学科教授
②1938年2月6日
③富山大学大学院薬学研究科薬学専攻修士課程修了
④生薬学、天然物化学、薬用植物学
⑤富山医科薬科大学薬学部助教授・附属薬用植物園園長
⑥薬用植物学・生薬学
⑦天然物の生理活性成分に関する研究

薬学部

藤本幸三 (ふじもと・こうぞう)



- ①看護学科教授
②1955年8月23日
③明星大学大学院人文科学研究科心理学修士課程修了、都立松沢看護専門学校卒
④看護学
⑤三重県立看護大学大学院助教授
⑥現代看護の動向、基礎看護方法論
⑦看護職の能力発達プロセス、クリティカルシンキング能力開発、組織コンサルテーション
⑧日本看護協会認定看護管理者審査委員 (平成14-17年)

保健学部

島内節 (しまのうち・せつ)



- ①看護学科長・教授
②1940年12月21日
③立教大学大学院社会学修士課程、昭和大学博士課程 (医学) 修了
④在宅ケア
⑤東京医科歯科大学保健衛生学部長・大学院保健衛生学研究科長・教授

小田原保健医療学部

庄司紘史 (しょうじ・ひろし)



- ①作業療法学科教授
②1941年1月1日
③順天堂大学医学部卒業
④神経内科、神経感染症、神経難病
⑤久留米大学内科 (神経内科) 教授
⑥神経内科学
⑦神経感染症後遺症、神経難病患者のQOLの向上
⑧日本神経感染症学会理事、日本神経学会専門医

リハビリテーション学部

操華子 (みさお・はなこ)



- ①看護学科教授
②University of California, San Francisco看護学部博士課程修了
③基礎看護学、感染管理
④聖ルカ・ライフサイエンス研究所 (聖路加国際病院) 臨床実践研究推進センター 看護リサーチ主任
⑤看護学原論、基礎看護学方法論I・II、基礎看護学実習
⑥手術部位感染のリスク因子に関する研究、患者の栄養状態と感染発生との関連に関する研究、終末期患者における褥瘡発生予測のためのリスクインデックスの開発

小田原保健医療学部

原明義 (はら・あきよし)



- ①薬学科教授
②1959年2月1日
③東北薬科大学大学院薬学研究科博士課程前期修了、旭川医科大学大学院、医学博士
④薬理学、臨床薬理学
⑤旭川医科大学薬理学講座助教授
⑥臨床薬理学・医薬品安全性学
⑦循環器疾患治療薬の薬理学的・臨床薬理学的研究
⑧日本薬理学会学術評議員

薬学部

池田俊也 (いけだ・しゅんや)



- ①薬学科教授
②1963年1月16日
③ハーバード大学公衆衛生大学院医療政策・管理専攻修士課程修了
④公衆衛生学、医療経済学、医療管理学、薬剤疫学
⑤慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室専任講師
⑥公衆衛生学、医療経済学、薬の流通論、薬学概論、薬学英語、臨床医学各論A・B (医療経営管理学科)
⑦薬剤・医療材料の経済評価、医療事故の疫学、薬価基準制度及び診療報酬制度
⑧日本薬剤疫学会理事、日本病院管理学会評議員、日本医療マネジメント学会評議員、日本クリニカルバス学会評議員、日本医療情報学会評議員、国際薬剤経済学・アウトカム評価学会日本部会理事・次期会長

薬学部

白井康正 (しらい・やすまさ)



- ①理学療法学科教授
②1935年8月15日
③日本医科大学医学研究科外科系整形外科専攻修士課程修了
④整形外科
⑤日本医科大学名誉教授
⑥整形外科
⑦運動器機能の解析 (脊髄・神経・筋等の電気生理学・バイオメカニカル解析)
⑧日本整形外科学会理事、関東整形災害外科学会会長、東日本臨床整形外科学会理事、日本脊髄・脊椎外科学会評議員 他

保健学部

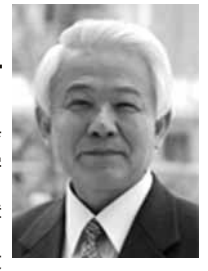
黒澤和生 (くろさわ・かずお)



- ①理学療法学科長・教授
②1958年2月21日
③杏林大学保健学研究科保健学専攻修士課程修了
④健康科学大学教授
⑤運動・動作学
⑦反応時間を用いた理学療法の評価・効果に関する研究全般、徒手治療に関する研究

小田原保健医療学部

南出好史 (みなみで・よしふみ)



- ①作業療法学科教授
②1941年12月11日
③東北大学大学院教育学研究科心身欠陥学専攻修士課程修了
④障害児 (特に聴覚障害児) 心理
⑤国立大学法人福岡教育大学理事・教授
⑥心理学
⑦障害児 (特に聴覚障害児) の認知機能

リハビリテーション学部

村田恵子 (むらた・けいこ)



- ①看護学科教授
②1942年10月20日
③聖路加看護大学大学院看護学研究科修士課程修了
④小児看護学、家族看護学
⑤神戸大学医学部教授 (現名誉教授)
⑥小児看護学・家族看護学
⑦慢性病児・障害児の家族ケアモデルの開発と臨床応用、ライフスキル育成による慢性病児・家族の健康増進プログラムの開発と活用法の確立
⑧日本家族看護学会理事 (第11回学術集会)、日本小児看護学会元理事・監事 (第11回学術集会) 他

小田原保健医療学部

久岡正史 (ひさおか・まさふみ)



- ①薬学科教授
②1945年2月13日
③大阪大学大学院薬学研究科修士課程修了
④生物薬剤学
⑤三共株式会社臨床研究部部長
⑥薬物動態学
⑦薬物送達システムに関する研究

薬学部

犬飼正俊 (いぬかい・まさとし)



- ①薬学科教授
②1945年9月26日
③東京大学農学部農芸化学科卒業
④微生物学、生化学
⑤三共株式会社探索研究所所長
⑥感染症学、化学療法学
⑦耐性菌に有効な新規化学療法剤の開発

薬学部

小原喜隆 (おばら・よしたか)



- ①視機能療法学科教授
②1940年5月17日
③岩手医科大学医学研究科博士修了、医学博士
④眼科専門医
⑤獨協医科大学教授
⑥眼疾病学
⑦白内障の成因に関する生化学的研究 (特に過酸化について)
⑧白内障学会理事、屈折手術学会理事他

保健学部

川崎佳代子 (かわさき・かよこ)



- ①看護学科教授
②1942年12月17日
③昭和大学医学部公衆衛生学特別研究生修了、医学博士
④医歯薬学
⑤山形県立保健医療大学大学院教授 (大学院保健医療学研究科教授兼任)
⑥母性看護学

保健学部



平成十八年度奨学生決定

平成十八年度の「ニッセイ同和損害保険株式会社奨学生」九名、および「国際医療福祉大学奨学生」二七名が、厳正な審査の結果、以下のように決まった。

ニッセイ同和損害保険株式会社奨学生

東京都中央区のニッセイ同和損害保険株式会社ビルにおいて、六月一日、同社の岡崎名誉会長、立山社長、本学の高木理事長、谷学長、開原大学院院長、佐々木学生部長の列席のもと、同奨学生の認証式が行われた。

この奨学生制度は、保健、医療、福祉の有為な専門職の育成をめざす本学の趣旨に賛同した同社により、創立一〇〇周年記念事業の一環として平成九年に設けられた。奨学金は原則として卒業まで支給され、返還の必要はない。

この制度により、今年度までに合計八名の学生が学んでいる。なお、今年度は計四二名の応募者があった。

奨学生氏名

- 【看護学科】 齋藤 誠 (二年)
- 【理学療法学科】 川本 誠子 (二年)
- 大久保 玲奈 (二年)
- 富永 琢也 (二年)
- 【言語聴覚学科】 佐藤 友貴 (二年)
- 【医療経営管理学科】 阿久津 友美 (二年)
- イエン ロム ドアレ スマイ (一年)

- 【薬学科】 南都 侑美 (二年)
- 黒澤 雅人 (二年)

国際医療福祉大学奨学生

国際医療福祉大学奨学生の表彰式が本校では六月一四日、リハビリテーション学部では七月八日にそれぞれ行われた。この制度では、年間授業料の半額が免除される。

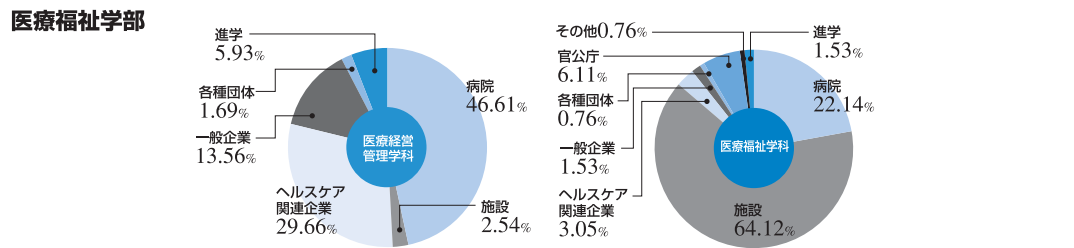
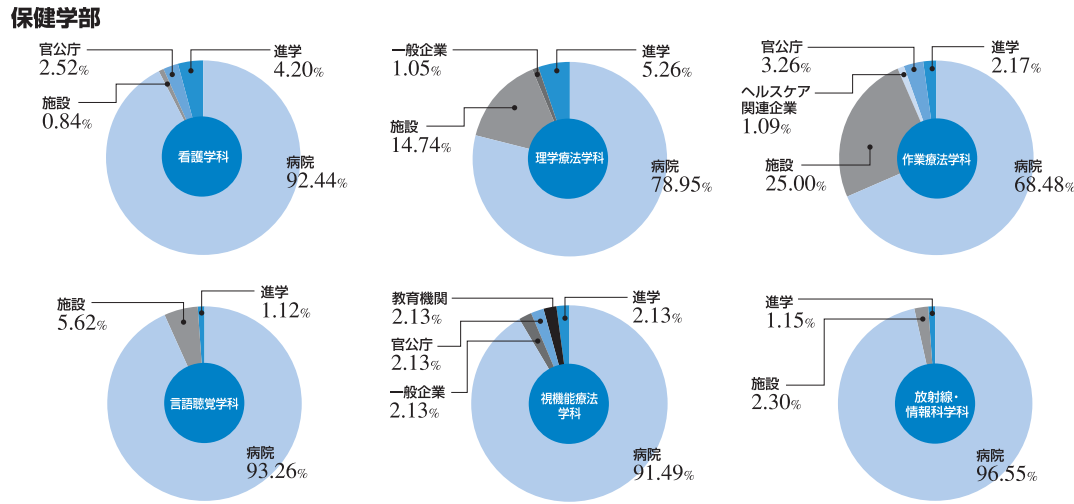
奨学生氏名

- 栃木本校
 - 【看護学科】 黒子 恵理 (二年)
 - 鈴木 陽子 (三年)
 - 小松 裕佳 (四年)
 - 【理学療法学科】 宮崎 良多 (二年)
 - 松原 千晶 (三年)
 - 笠原 裕也 (四年)
 - 【作業療法学科】 藤林 智子 (二年)
 - 中川 真理 (三年)
 - 三浦 亜希 (四年)
 - 【言語聴覚学科】 磯 侑里子 (二年)
 - 横倉 郁乃 (三年)
 - 原田 千鶴 (四年)
 - 【放射線・情報科学科】 田代 和也 (二年)
 - 鈴木 清剛 (三年)
 - 室橋 歩美 (四年)
- 【視能能療法学科】 小久保 紫乃 (二年)
- 河井 由希子 (三年)
- 永井 重之 (四年)
- 【医療経営管理学科】 柴田 麻記子 (二年)
- 永山 孝広 (三年)
- 伊谷 野和弘 (四年)
- 【医療福祉学科】 高山 彩友美 (二年)
- 野本 昭仁 (三年)
- 葛西 佐和子 (四年)
- 【薬学科】 柳澤 照史 (二年)
- リハビリテーション学部
 - 【理学療法学科】 梅藤 亜美 (二年)
 - 【作業療法学科】 西原 慧理子 (二年)

本学には、ほかに国際医療福祉大学教育後援会奨学金や日本学生支援機構奨学金など、各種奨学金制度がある。「学生生活の手引き」を参照するか、学生課窓口まで。

平成十七年度卒業生の進路

各学科就職委員や先生方にご指導頂き、病院や施設関係を中心に、平成十七年度



もほぼ一〇〇%の就職率を達成した。視能能療法学科の第一期生は、三月までに全員の就職が決定した。医療経営管理学科では過去最高の就職・進学率であり、上場企業にも多く就職した。

(本校学生課)

平成十七年度 国家試験受験結果

受験区分	本学			全国
	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率	
保健師	122	87	71.3%	78.7%
助産師	7	6	85.7%	98.1%
看護師	118	106	89.8%	88.3%
理学療法士	99	99	100.0%	97.5%
作業療法士	94	88	93.6%	91.6%
言語聴覚士	100	90	90.0%	62.4%
診療放射線技師	128	93	72.7%	62.6%
社会福祉士	146	102	69.9%	28.0%
精神保健福祉士	33	32	97.0%	61.3%
視能訓練士	47	47	100.0%	97.6%

※本学の合格率は新卒の合格率。全国平均には既卒者も含む。

平成十七年度 国際医療福祉大学決算報告

平成十七年度は、小田原保健医療学部の開設準備(十八年四月開設)や、薬学部とリハビリテーション学部が一年のみの進行年度のために、低成長の決算内容でした。しかしながら、基本金組入前の消費収支差額(一般企業の当期純利益)は一四億九〇〇万円が計上され、健全な財務内容が維持出来ております。

(経理部長 鐘江高之)

貸借対照表 平成十八年3月31日 (単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	40,907,317	33,556,912	7,350,405
有形固定資産	40,179,272	32,774,981	7,404,291
土地	11,868,433	11,376,273	492,160
建物	20,471,386	11,892,980	8,578,406
構築物	624,263	592,114	32,149
教育研究用機器備品	5,303,129	4,927,471	375,658
その他の機器備品	1,271,122	1,255,157	15,965
図書	443,828	331,602	112,226
車輛	11,047	10,484	563
建設仮勘定	186,064	2,388,900	△ 2,202,836
その他の固定資産	728,045	781,931	△ 53,886
流動資産	8,741,128	9,083,277	△ 342,149
現金預金	5,993,242	7,259,680	△ 1,266,438
預け金	0	205,250	△ 205,250
貯蔵品	233,636	240,364	△ 6,728
未収入金	2,450,113	1,283,547	1,166,566
仮払金	3,839	37,896	△ 34,057
その他の流動資産	60,298	56,540	3,758
資産の部合計	49,648,445	42,640,189	7,008,256
負債の部			
固定負債	6,388,263	3,108,120	3,280,143
流動負債	11,229,463	9,013,392	2,216,071
負債の部合計	17,617,726	12,121,512	5,496,214
基本金の部			
第1号基本金	35,313,428	30,995,681	4,317,747
第2号基本金	0	67,913	△ 67,913
第4号基本金	812,000	685,000	127,000
基本金の部合計	36,125,428	31,748,594	4,376,834
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収支超過額	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	4,094,709	1,229,917	2,864,792
消費収支差額の部合計	△ 4,094,709	△ 1,229,917	△ 2,864,792
負債の部 基本金の部 および消費収支差額の部 合計	49,648,445	42,640,189	7,008,256

消費収支計算書

科目	本年度 (自 平成十七年4月1日 前年度 自 平成十六年4月1日)		平成十八年3月31日 至 平成十七年3月31日	
	本年度	前年度	本年度	前年度
消費収入の部				
学生生徒等納付金	5,497,645	4,710,709	786,936	
手数料	276,319	222,092	54,227	
寄付金	826,770	1,522,061	△ 695,291	
補助金	2,398,253	1,309,637	1,088,616	
資産運用収入	44,183	10,912	33,271	
事業収入 (うち医療収入)	10,661,282 (10,357,480)	4,408,479 (4,262,958)	6,252,803 (6,094,522)	
雑収入	223,605	40,657	182,948	
帰属収入合計	19,928,057	12,224,547	7,703,510	
基本金組入額	△ 4,359,785	△ 3,950,513	△ 409,272	
消費収入合計 (a)	15,568,272	8,274,034	7,294,238	
消費支出の部				
人件費	7,716,053	4,815,197	2,900,856	
教育研究経費 (うち医療経費)	6,517,880 (4,469,932)	3,589,060 (2,000,097)	2,928,820 (2,469,835)	
管理経費	3,584,151	2,074,094	1,510,057	
借入金等利息	87,575	71,762	15,813	
資産処分差額	524,972	0	524,972	
徴収不能引当金繰入額	2,432	2,000	432	
消費支出合計 (b)	18,433,063	10,552,113	7,880,950	
消費収支差額(a)-(b)	△ 2,864,791	△ 2,278,079	△ 586,712	

平成十七年度国家試験合格率発表

平成十七年度各種国家試験の受験結果が表のようにまとまった。

本学では国家試験のためのきちんとした対策指導をしており、理学療法士試験の合格率は開学以来、八年連続の一〇〇%であった。

昨年度、第一期生を送り出した視能能療法学科でも、全員、視能訓練士試験に合格した。

本学の医療福祉学科では全員、社会福祉士試験の受験資格が得られる。社会福祉系学科を設置している大学は全国でも

多数あるが、実習等に人数の制限を設けているところがほとんどで、本学のように全員に受験資格が与えられる大学は稀である。なかでも精神保健福祉士コースの学生は、例年、社会福祉士試験でも一〇〇%の合格率を見せている。

なお、民間資格ではあるが、診療情報管理士の合格率も、全国の四年制大学としてはトップであった。

このように、本学の学生は勉強熱心なこともあり、各試験とも高い合格率となっている。

※本学は日本病院会による診療情報管理士養成認定校である。

(東京事務所 出版広報室)

「リハビリ患者見殺しは酷い」と題した多田富雄氏の論文が『文藝春秋』（二〇〇六年七月号）に掲載された。この論文は、氏自身の五年間にわたる脳梗塞後遺症の体験に基づく論述であり、今年四月に改訂された診療報酬が急性期・回復期に力点が置かれ、維持期のリハビリテーションサービスに日数制限が提示されたことに対する氏の見解である。氏は、発症から五年経過した自分の状態は維持期に当たるが、介護保険制度のリハビリテーションサービスはレクレーションまがいのものであり、氏の望む「リハビリ」を補填する受け皿は医療サービス以外にはないと語っている。

しかし、私は医療におけるリハビリテーションサービスは国が提示した日数制限が妥当であると考える。多田氏のような意見に圧倒され、国は算定日数を緩和する除外規定を設けたが、それも緩やか過ぎて腰砕けになったと私は思っている。むしろ医療保険で行われたリハビリテーションを介護保険のそれにつなげ、日常生活に役立つ目標に移行させながら、両者のサービスを切れ目なくつなげていくという国の考えを推し進めたいと思っている。問題は、医療サービスの期間を引き延ばさなければならぬということではなく、急性期・回復期のリハビリテーション医療が予後予測に基づく目標指向的なものであるか、そしてそのサービスを引き継ぐ介護保険下の維持期のリハビリテーションが個別性を十分考慮したサービスであるかどうかを確認し、必要であれば是正することである。

私の主張 第1回 リハビリテーション医療のあり方について 保健学部長・作業療法学科長 杉原素子

病院で実施されているリハビリテーションについて、強い疑問を感じたのは、東京都福祉局の身体障害者更生相談所・知的障害者更生相談所・肢体不自由者更生施設併設の機関に衛生局から異動した二〇年前であった。そこで脳血管疾患を発症した人たちの中に病院から自宅に戻れず、行き場所として更生施設に入所せざるを得ない人たちの状況を知ることができた。医療機関であるのに診断・予後診断が本人や家族に伝えられていない状況や、最大限の回復に基づいてなされるべきADL能力の見極めも不十分であるため、本人や家族が退院時や、これから先の生活の姿を具体的にイメージできずにいた。「もう少し早い時期に、現実的な生活への復帰を目指すサービスに切り替える必要がある」、「よほどしつかりとしたクリニカルパスが作成されていない限り、現状の医療機関からではとても実効性のある自宅復帰は難しい」とその時感じたが、二〇年後の今でもリハビリテーション医療は自らの力では正でできなかったということなのかな。

リハビリテーション医療は、最大限の回復をできるだけ早い時期に、しかも速く到達することを目指すものであると考える。そこでは本人や家族への診断・予後診断に関する説明がなされ、今後の生活と障害の管理や能力維持は居住地域が担うという体制はごく当たり前のことだと思ふ。今やるべきことは、医療と福祉・介護の各々のリハビリテーションサービスの質の確認とそれらを円滑につなげる努力である。

第十一回運動会開催

五月二十七日（土）、今にも雨が降り出しそうな曇天のもとで、第十一回運動会が大田原本校のグラウンドで開催された。九学科の学生及び障害児を持つ親の会「ひよこの会」や地元自治会の皆さんの参加もあり、観客と参加者は二三〇〇名を超えた。

午前九時三〇分からの開会式にはほぼ全員が集合し、学長代理の伊藤元信常務理事の挨拶のあと、昨年度優勝した医療経営管理学科（H M）から優勝トロフィーが返還され、蛭子亮太実行委員長（理学療法学科（P T）二年）が開会挨拶と、本年度新調された優勝カップの披露を行った。

競技内容は、新種目の「バットでグルグル」（バットを頭につけて五回転した後走る）、「栄光の架け橋」（馬になった背中の上を走る）、「私の想いを受けとめて」（玉入れ）や、学科が二丸となる「大縄跳び」、「綱引きダッシュ」など。



優勝した理学療法学科の応援合戦での演技

雨が心配されたため、競技時間を一部変更、綱引き終了後に応援合戦を行った。揃いの法被で「よさこいソーラン」を踊った看護学科（N S）や、運動会恒例となった揮姿のP T男子学生、さらしを胸に巻いた女子学生が登場し、観客の喝采を浴びるなど、それぞれの学科が趣向を凝らし、毎日の練習の成果を披露した。最終種目の「学科対抗リレー」では、各学科の脚自慢たちが学科の名譽を背負って全力疾走、盛り上がりは最高潮に達した。

P Tが大量得点で優勝を奪還し、学科の結束の強さを見せつけた。連覇を狙ったH Mは惜しくも準優勝であった。視機能療法学科（O R T）が三位入賞し、昨年最下位であったN Sは六位に躍進した。閉会式では、佐々木博学生部長からP Tに優勝カップが授与され、講評をいただいた。

成績は、一位P T、二位H M、三位O R T、四位H S、五位O T、六位N S、七位R T、八位S T、九位P S。
（本校学生課）

新入生セミナーを開催

言語聴覚学科では四月二三日に新入生セミナーを開催した。このセミナーは、新入生が言語聴覚士を目指す心構えを養うとともに、教員や在学生・同学年同士の親睦を深めることを目的として昨年から開いている。まず藤田学科長の挨拶と今後四年間の心構えについての講義に始まり、新任教員の紹介、各領域の概要について話があった。また、在学生と卒業生から学生生活・国家試験・進路など、大学生活について実際の体験に基づく助言をもらった。さらに、二、四年生と教員を交えて二、三名のグループに分かれ、「共通点を出し合う」ことをテーマにディスカッションを行って、午前中のプログラムを終えた。

お昼は、那須アスリーナでお弁当を食べながら、午前中にグループで出し合った共通点からそれぞれ工夫を凝らし発展させたグループ名の発表があり、自分のグループの発表では大きな歓声を上げて応援する光景も見られた。

最後は体育館に移動し、ドッチボール大会。優勝賞品を目指し、各グループ対抗で熱い戦いが行われた。最初はあまり話ができなかった一年生同士も、この頃になると打ち解けた様子が見られた。

日曜のほぼ一日を費やし、内容の詰まったセミナーで、今後の充実した大学生活への指針を与えるものとして有意義な時間であった。

（言語聴覚学科助手 谷合信一）

「国際盲人マラソン大会」で萩島君が伴走を体験

四月一六日、オリンピックや国内外の大会で活躍したランナーがボランティアとして視覚障害者をサポートする「国際盲人マラソンかすみがうら大会」が土浦市で開催された。

視機能療法学科四年生の萩島慎一君がこの大会で救護ボランティアランナー兼伴走ボランティアランナーとしてフルマラソンの中間地点からゴールまでの約二一km、盲人ランナーの伴走を体験。ロープと声で走路上の障害物、路面の起伏、曲り角等の誘導を行った。萩島君は「伴走で大事なことは相手のリズムに合わせて走る。ロープと声で誘導を行いつつ、相手のリズムを壊さないように走るのは想像以上に大変でした。盲人ランナーの中にはパラリンピックを目指すような競技志向のランナーも多く、改めて伴走ランナーの責任の大きさを感じました。またハンディを背負ってもそれに屈する事なく強く生きていこうとする盲人ランナーの価値観に触れ、大きな刺激を受けました。この体験は私の将来にとって大きな財産となりました。この財産を生かし今後も『体験する福祉・ノーマライゼーションの実践』を目指し、伴走ボランティアランナーとして活動を続けていきたい」と熱く語ってくれた。三年次の実習で障害者のスポーツに興味を抱き、ボランティアランナーとして参加したという。（視機能療法学科講師 藤田純子）

学内での薬学専門実習スタート

薬学部は開設二年目を迎え、二年次生で本格的な薬学専門実習が始まった。薬学部では他の医療福祉系学部と比べ、学内での専門実習の多いことが特徴である。二年次生は、一年次に既に三つの専門基礎実習（物理学実習、化学実習、生物学実習）を修了している。専門実習は、約百名ずつ、二つのグループに分かれ、火、水、木曜日の午後に行われている。二年次前期の前半では、物理系薬学実習と化学系薬学実習Iが行われる。前者では機器分析や容量分析の内容に基づいた医薬品分析の基本を、後者では有機化学で学習した内容を土台にして医薬品合成の基本を扱う。技術、態度の習得に加えて、実験結果を解析、考察する経験を経て、学生は薬剤師にとって必要不可欠な問題解決能力や解析能力を養っていく。

二年次前期の後半には、医療系薬学実習II、後期には生物系薬学実習I（薬理実習）、医療系薬学実習III、化学系薬学実習IIと、より専門性の高い実習が学内で実施される予定である。

（薬学部助手 石丸直樹）



化学系薬学実習Iの実習風景

第六回医療経営戦略セミナー開かる

今年の診療報酬改定は、昭和三六年来に皆保険制度が発足して以来、医療界に最大の影響を及ぼした改定といわれている。多くの医療機関が制度に関する最新情報を求め、これからの戦略を模索している。このような情勢のもと、六月一〇日（土）、本学において、第六回医療経営戦略セミナーが開催された。地元を中心とする五八病院一三二名という過去最高の外部からのお客様と、医療経営管理学科の学生がセミナーに参加した。今回のテーマは、「D P C対策と療養病床対策」であり、メインの講師は、厚生労働省のD P Cと療養病床の改定の担当であった。

セミナーの前半では、最初に厚労省の担当官がD P Cに関して講義をした。その後、済生会宇都宮病院の副院長の大塚秋二郎先生が、D P Cに取り組んでいる済生会病院の運営にかかわる具体的な数字を示しながら、現場報告を行った。

セミナーの後半では、まず厚労省の担当官が療養病床の講義をした。ついで那須中央病院の川上事務長が、新制度に移行した場合の種々のシミュレーションの結果を示しながら、現場報告を行った。各病院の生き残りに直結した内容のセミナーであるので、聴衆は食い入るように話を聴き、講演後には活発な質疑応答が行われた。

今回のセミナーは、三年生の病院実習の報告会をかねて、一月に開催する予定である。（医療経営管理学科長 高橋泰）

トイレは笑う
プランニングOM編著/TOTO出版 九七二円
ロシアにおけるニタリノフの便座について
椎名誠著 新潮文庫 四二〇円

一九八九年から九一年にかけて、金沢のタウン誌に書評を連載していた。四八回連載の中で最も反響が大きかったのが、トイレにまつわる本を紹介したときであった。「おしりだつて洗ってほしい」でお馴染みのTOTOが、ついに本を出版した。古今東西トイレにまつわる話を集めた「トイレは笑う」だ。人類創世とともにスタートしたトイレの歴史。クレオパトラもキリストも、聖徳太子も新撰組も、みんな私たちと同じようにトイレへ行き、時には便秘に悩み、下痢に苦しんだに違いない。歴史の裏にトイレあり、風土とともにトイレあり

医療経営管理学科 学科長 高橋泰

だ。十二単を着て平安時代のお姫様ほどのようにして用を足したのか、極地・砂漠・宇宙など極限状態でのトイレ事情、歴史に重大な影響を及ぼしたトイレでの出来事など、興味の尽きない、読んで楽しいウンチク学である。

トイレにまつわる文章の中で断然面白いのが、椎名誠の「ロシアにおけるニタリノフの便座について」だ。極寒のシベリアに飛んだ筆者が、便座の全くない便器との出会いよりこの話は始まる。清潔好きで日本の女子大生なら間違いなく卒業するソ連邦トイレ事情の綿密なレポートに続き、ベングンに取り囲まれての南極での野クソ体験、中国式開放便所、カリマンタンの水上便所、ガンジス川をめぐるトイレ食物連鎖など、おぞましくも力いっぱい笑える筆者の地球規模のトイレ絶対体験記が次から次へと飛び出してくる。

リハ学部ST棟の起工式を挙行

リハビリテーション学部言語聴覚学科（ST）棟（福岡県大川市）の起工式が、六月二日、建設予定地で行われた。起工式には高木邦格理事長をはじめ、植木光治大川市長など約八〇名が参加、工事の無事を祈願して厳かに神事が執り行われた。

高木邦格理事長は「福岡の大学では初めての言語聴覚学科、ぜひ地域と共に発展していきたい」と挨拶。また、植木光治大川市長は「基幹産業の木工業が厳しい状況にあるなか、リハビリテーション



地鎮の儀を行う高木理事長

学部の学科増設は市にとってもうれしい限り」と祝辞を述べた。
言語聴覚学科棟は鉄筋四階建て、延床面積は約七二〇㎡、竣工は平成一九年二月末を予定。言語聴覚学科は既存の理学療法学科の定員増とあわせて、同年四月開設を目指す。
（九州・広報 原田ちはる）

大学院に新分野を開設

大学院は、修士課程に助産学分野と視機能療法学分野、博士課程に臨床試験研究分野を新設した。助産学分野は、これまで看護学で行っていた助産学教育を大学院で行うことにより、学部教育よりも充実した助産師育成と、助産師有資格者のための高度実践力育成、研究者・教育者の養成をめざしている。視機能療法学分野、臨床試験研究分野においても、視野の広い高度専門職・研究者・教育者の養成をめざして新たな一歩を踏み出し、今後の発展が期待される。

本学大学院は独自のシステムにより、複数のキャンパスを接続した同時双方向の遠隔授業を行っている。四月に小田原サテライトキャンパス、熊本教室を新設、現在全国七箇所大学院教育を展開しており、各地で活躍する医療福祉専門職のニーズに応えていきたいと考えている。

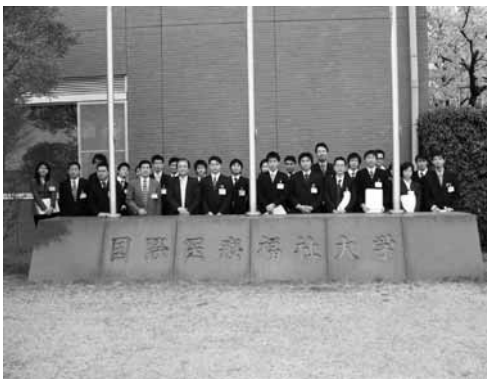
看護生涯学習センターで認定看護管理者養成コース

本学看護生涯学習センターで「認定看護管理者養成コース（ファーストレベル）研修」がスタートし、六月三日、東京サテライトキャンパスで開講式が行われた。開原大学院長の「本学の教育設備を存分に活用して頂き、有意義な研修となることを望みます」との挨拶に続いて第一回研修が行われ、六二名の受講者・大学院生が熱心に聴講した。研修は来年一月まで実質七ヶ月にわたって開講される。
（大学院東京キャンパス 大澤倫子）

初期臨床研修医のグループ合同オリエンテーション

国際医療福祉大学・高邦会グループは質の高いチーム医療に貢献できる医師の育成に取り組みしています。昨秋より施設横断的な「中央臨床研修委員会」を立ち上げ、管理型研修指定病院（国際医療福祉病院、附属熱海病院、附属三田病院、高木病院）の支援・研修医の募集・合同研修の企画・研修指導医の養成等を行っています。

今回は初めての合同企画として、四月一四〜一六日の三日間、四病院の初期研修医二五名が集まり合同オリエンテーションを開催。大学本校を皮切りに、栃木・東京・熱海地区の施設を見学したり、高木理事長、谷学長をはじめ多数の方々から貴重なご講義をいただいたりしました。「初心忘るべからず」と言うように、最初が肝心。医師になって間もない研修医の方々も、今回多くのことを学ぶことができたことと思います。開催にご協力くださった皆様、誠にありがとうございました。（中央臨床研修委員長村山史雄）



大学本校での記念撮影

新しい学部の伝統の始まりを予感

奈良助教教授(中央)の授業風景



大川キャンパスレポート

第五回

普通の大学生と同じになり、少し大人びてきて、連休を迎える頃には新生活にも慣れ、表情も落ち着き一息つく。そして大学の授業も本格化し、学生の表情には時折険しきも見られるようになる。その険しきの一因は私の授業にあるようだ。私が今年度一年生で担当しているのは解剖学と解剖学実習である。それぞれで肉眼解剖学分野を私が、顕微鏡解剖学分野を杉原甫教授が担当している。

私の担当の解剖学実習では、六月上旬に骨学の口頭試験を行う。人体に二〇〇余りある骨の名前、左右、方向性、どの骨と関節するのか、すらすら答えられるようにするのが目的である。試験は解剖学準備室で一人ずつ行われる。一つひとつの骨が分離されたヒト一

理学療法学科助教 奈良貴史
昨年より少し大きくなった桜が満開のなか、大川キャンパスにも期待に胸を膨らませた二期生が入学してきた。入学式は出会いの季節である四月のなかでも最も輝いている場である。新入生は、ほとんどが示し合わせたかのように黒系のスーツ姿で、遠目から見ると誰が誰だか区別できないが、近づいて一人ひとりの顔を見ると、緊張した趣のなかに、それぞれの明日への思いが感じられる。幾つになっても入学式の学生の初々しい顔を見るのは嬉しい。

口頭試験に戸惑う一年生

そんな彼らの顔つきも一週間もすれば

二年生が一年生を指導する姿に頼もしさ

四月の授業開始から口頭試験について

は告知しているが、連休前は骨の名前を覚えるのだけでも大変なことに気づいていないのか、呑気そうにしている。それが授業の進行につれて生半可なことではどうにもならないことがわかってくるのか、実習中も真剣な顔になってきて、授業の空いている時間に解剖学実習室の模型を使わせてくれとか、日曜日に開けてほしいとか要望してくる。
時間の許す限り解剖学実習室を開放しているが、昨年と違って上級生

充実した毎日を過ごしています

私が作業療法学科を選んだ理由は、患者さんの機能回復・維持はもちろん、社会復帰や精神的サポートなど、患者さんとより密接に関わっていくという職業内容の深さや幅広くに興味を持ったからでした。憧れのリハビリテーション学部に入學して二ヶ月が過ぎましたが、今思うことは勉強面でも生活面でも充実した毎日が過ごせているということです。クラスは同じ夢を目指す人たちがかりなので、友達と将来のことを話す機会も増え、その度に理想のOT像について考えたり、こういう人間が求められているんだ...など、将来を見通しての生活をするようになりました。

勉強は大変です。数学などはなくても日々覚えていくことが増え、解剖学や人間発達学などの専門分野にも触れ、新鮮さを感じるとともに、復習の大切さも改めて感じています。また、学校生活を通じては、OTとして必要なコミュニケーション能力を身につけていきたいです。勉強やサーク



キャンパスで仲間たちと語り合う筆者(中央)

を見かけることである。入学したての頃は尺骨と橈骨の区別がつかなかった学生が得意気に説明している姿は頼もしくも見える。新しい学部の、小さいながらも伝統の始まりを感じさせる一コマである。一年生の私の授業での試験はこれでは終わらず、七月中旬には筋の口頭試験があり、筋の名称のみならず、筋の起始、停止、支配神経、作用を覚えなければならぬ。勉強は始まったばかりである。

作業療法学科一年 夜久加代子
ルやバイトなど、一つ一つは100%できなくても、全部を合わせて100%になるような充実感を感じる生活を保って、バランスの良い大学生活を送っていこうと思っています。
四年後の目標は国家試験の合格です。そして、祖父母が元気に楽しく暮らせるように、力になれる孫であり作業療法士になりたいです。



完成予想図

臨床医学研究センター(千葉地区) 化学療法研究所附属病院

新病棟の起工式行わる

六十七年の歴史を刻む化研病院の敷地の一角で、四月二十二日、新病棟の起工式にあたり、安全祈願祭が行われました。当日は初夏を思わせる晴天の中、起工式特設会場で高木理事長、毛利院長ら約六〇名の来賓ご列席の中、鉄入の儀や玉串奉奠などの神事が肅々と執り行われまし

施設インフォメーション

News: Affiliated Facilities

附属病院

国際医療福祉大学附属熱海病院

〔新病院長メッセージ〕
初島を眺めながら思うこと



国際医療福祉大学附属熱海病院 院長 高梨吉則

私の祖父は神奈川県二宮あたりから明治時代に横浜に丁稚奉公に出て来た。それから横浜で独り立ちして店を構えたことから、私たち家族の横浜での歴史が始まったと聞いている。だから、私は横浜生まれの横浜育ちである。

私が育った昭和二五〇三〇年前後、横浜に住んでいると、箱根や熱海は高級な行楽地の印象があった。天下の険や温泉に行ってみただけで、なかなか連れて行って貰えなかった。昭和三十一年に市立の小学校の修学旅行で箱根に泊まった感激を覚えている。同級生と一緒に旅館に泊まるといううれしさもあったのだらう。池波正太郎の『仕掛け人 梅安』だったか、大怪我や心臓の病で、その治療に熱海に月単位で湯治する話が出てくる。今のような治療が整っていなかった江戸時代には、傷の手当は薬草を飲んだり、

塗ったりするか、のんびり湯治するくらいしかなかったと思われる。

その湯治場であった熱海で私たちは今、温泉を脇において、病院で最新の医療を提供しようとしているが、「ふーっと」違和感を感じる。この方向が私たち人間にとって最良なのだろうか？ みんなの幸せなのだろうか？ 誰にも答えられない、時間だけがやがて明かしてくれるであろう問いかけ——窓を眺めると、波立つ水面のあなたに初島が変わらない姿を今日も見せてくれている。

ヒポクラテスの時代から、病んだ人に対して二つの対処の仕方があった。病気はその人の心の歪や、合わない食事、対人関係の拙さなどにより引き起こされるので、そういうものから病んだ人を解き放すために、安静にしたり転地したり、美味しいものを食べたり、温泉にのんびり浸かるなどしたりして癒すという考え方がその一つである。もう一つは、病気にははつきりとした原因があり、それを取り除かなければ治らないという考え方である。PET/CT装置やMRIなど検査装置の整った現代においても、この二つの考え方は生きており、病巣という局所とともに病んだ人そのものも癒すという、両方を合わせて初めて医療と考えられる。

どちらの考え方に基づく医療も、人の役に立つことから始まり、終始、人を害することは絶対にしてはならないことは、いつの時代も、どんな状況においても変わらない真実である。常にこの二つの考えの医療を記憶に留め、実践できるように心がけたいものである。

た。

新外来・病棟の建物は、三階建て、総床面積約八六〇〇平方メートル。新築工事と同時に、南・東病棟の増改築工事及びそれぞれを結ぶ回廊の工事も行われます。現在より七〇床の増床となり、充実した医療体制が整備されます。

さらに開設当時、宮内省(当時)より下賜された明治天皇の御学問所「恩賜館」を敷地内で移動させる工事も行われます。従来のたずまいを残し緑多い環境を維持しつつも、時代のニーズに的確に対応できる地域の基幹病院としてさらなる発展を目指し、来年二月の新病棟竣工を機に、化研病院は一新されます。

(総務企画課 石垣裕子)

臨床医学研究センター(栃木地区) 国際医療福祉病院

二十四時間小児救急体制への取組み

国際医療福祉病院の位置する那須塩原市と、その周辺六市一町には、十五歳未満にあたる年少人口約四万八千人が暮らしています。当院は、この栃木県北地域において、近隣の総合病院とともに、小児医療に対する基幹病院の一つとしての役割を担っています。

小児科医は常勤、非常勤あわせて十二名です。このスタッフにより、月曜日から土曜日までの午前午後の診療のほか、特に月曜日から金曜日までは、全時間外診療を小児科単科連日当直体制でカバーしています。

昨年一年間では時間外に六九二六名、

附属病院

国際医療福祉大学附属三田病院

学術委員会主催の院内研修会開催

三月一五日に第九回研修会が開催され、「放射線治療の発展と展望・緩和ケアの現状と問題点について」をテーマに、東京大学放射線科助教授・緩和ケア診療部長の中川恵一先生にご講演いただきました。第十回研修会は、院内医師からの要望が強かったテーマ「適切な輸血療法の実施について」で、四月二五日に東京都赤十字血液センター副所長の佐竹正博先生を招いて開催されました。医師、看護師、検査技師等沢山のスタッフが参加し、輸血に対する法律も含めた正しい知識を得ることができました。

五月二二日には、当院緩和ケアチームリーダー太田恵一朗先生によるコーディネートのもと、「緩和ケアチームの現状と将来」をテーマに第十一回研修会が開催されました。日本における緩和ケアチーム活動の指導的立場にある筑波大学大学院臨床医学系総合診療科講師の木澤義之先生に、具体的な事例も含めわかりやすくご講演いただき、今後の当院でのチーム医療の発展につながる一歩となりました。今後もスタッフの知識・技術の向上を含めた学術的な研修会として、様々なテーマで開催していきます。

DPC(診断別別包括支払い制)導入に向けて

当院でもDPCを用いた包括支払い制度の導入を検討しており、武藤正樹副院

一日平均では二十七名の小児患者が受診しました。このうち入院は二〇〇名を数えました。また、当院はNICU(新生児集中治療室)を備え、院内のみならず、院外出生児も積極的に受け入れています。

地域の基幹病院小児科が担うべき、小児専門医療の重要な柱には、新生児医療と救急医療があります。しかし現在、地域医療の課題の一つに、当院のような基幹病院への初期救急患者の集中、需給の不均衡があります。この問題に対して、各地域の実情に応じて小児救急体制作りが試みられています。

成人対象の救命救急センターを、小児救急拠点病院として活用するER(救命救急センター)型、あるいは、地域の小児科標榜医も参加する、小児夜間救急事業型などがその例です。

私たちは今後も行政、地域医師会、二つの医科大学等、関係各方面と連携をとりながら、栃木県北地域の小児医療に対して、貢献できる方策を探っていきたくて考えています。

(国際医療福祉病院 小児科部長 野崎靖之)



小児科スタッフ

臨床医学研究センター(東京地区) 山王病院

独自テキスト「Happy Birth」刊行

「小さな命をあずかる貴方を応援し、お手伝いをしたい」という思いから、産婦人科医師とスタッフが、妊娠・出産・育児に必要な事柄を詳しく盛り込んだオリジナルテキスト《Happy Birth》(写真)を作成しました。

母親学級では、このテキストを用いて、ちょっとした疑問から全くわからないことまで、ご一緒に解決しながら、安心で快適なマタニティライフ、素晴らしい出産を経験して頂くよう努めています。

また、日本語を母国語としない患者様も多い当院の特性上、英語版も作成中です。「産前産後も、常に安心して受診いただける病院」「またここで産みたいと思わせる病院」を目指して、これからも、より一層サービスを向上するよう努力して参ります。(山王病院 産婦人科)



医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカイパーフェクTV!774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

■ おすすめの番組

改正介護保険制度の一步先をいく取り組み きらり☆介護自慢 第2回 地域密着介護予防——栃木県大田原市の成功の秘訣

大田原市は、国際医療福祉大学と協同で介護予防のモデル事業に参画し、そのデータに基づいて積極的な介護予防事業を展開してきました。地域密着型が重視されるようになりましたが、以前から地域と密接に結びついた健康管理の活動があったのです。



ほほえみセンターでの筋力向上トレーニング

患者の手による「リウマチ白書」 患者の声を医療に生かす 第2回 患者がつづる命の白書～日本リウマチ友の会～

(社)日本リウマチ友の会では5年に1度、患者の実態をまとめた、患者の手による「リウマチ白書」を作成しています。リウマチとはどんな病気なのか? 患者は何を望んでいるのか? 白書を通して、現在のリウマチ患者と患者を取り巻く問題を浮き彫りにします。



「リウマチ白書」

浴風会ケアスクール「認知症介護家族の集い」 基調講演「認知症の方が地域で暮らしていくためには」

認知症研究者や家族会の協力のもと、厚生労働省の援助を受けて暫定的に結成された認知症介護家族支援委員会。「都市部で認知症高齢者と生きる～介護家族支援のいま～」と題して委員会が行った集いから、長谷川和夫氏の基調講演をお届けします。



長谷川和夫氏 (認知症介護研究・研修東京センター長)

気になる健康、知りたい病気のアレコレ! 医心伝心——専門医が語る “目で見える現代社会の病気ガイド” 食中毒

住まいや住宅の事情も変わり、快適な環境が整ってきましたが、思わぬところで食中毒を起こす菌やウイルスの増殖が心配されるようになりました。食中毒のタイプやウイルスの特徴、食品との関係、症状や対処法、予防法などについて北村義浩先生にうかがいます。



北村義浩氏 (東京大学医学研究所アジア感染症研究拠点 教授)

● 医療福祉チャンネル774を見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカイパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。

ご視聴には、スカイパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!

○視聴料・・・月額2,100円 (このほかに、スカイパーフェクTV!加入料・・・2,940円(初回のみ)・スカイパーフェクTV!月額基本料・・・410円がかかります。)

法人契約・・・5,250円

○IUHW学生、マロニエ会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせ下さい。

● 視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774 ((株)医療福祉総合研究所 お客さま係) Eメール info@iryofukushi.com HP www.iryofukushi.com



オープンキャンパス開催のお知らせ

国際医療福祉大学では今年度もオープンキャンパスを開催いたします。学内見学ツアーや体験入学、個別入試相談会も行う予定です。皆さま、この機会にぜひ大学へお越しください。

■ 栃木本校

7/29 (土) 8/2 (水) 8/26 (土)
10:00～16:00

■ リハビリテーション学部 (福岡県大川キャンパス)

7/30 (日) 8/27 (日) 9/18 (月・祝)
13:00～16:00

■ 小田原保健医療学部 (神奈川県小田原キャンパス)

7/30 (日) 8/3 (木) 8/26 (土)
11:00～16:00

①総合ガイダンス②体験入学③学内見学ツアー④学生による受験指導⑤生活情報・学生生活相談⑥高校教員相談会などを予定しています。

詳しくは、本学ホームページ <http://www.iuhw.ac.jp/> でご確認ください。

【お問い合わせ】

栃木本校

0287-24-3210 (広報室) 0287-24-3200 (入試課)

リハビリテーション学部

0944-89-2000 (入試事務室)

小田原保健医療学部

0465-21-0361 (入試事務室)